

3. 農業被害・生活環境被害を防ぐ自衛策

ヌートリア、アライグマ及びハクビシンは、餌などを求めて人家近くまで出没するため、その被害を防止するため自衛策を講じることが必要です。これらの哺乳類に対する自衛策は概ね同じです。

①早期発見

- ・自治会、町内会等の地域ぐるみで被害予防に取り組むことにより、被害の事前回避、軽減が可能です。
- ・地域で目撃情報の収集・把握に努めることも効果的です。

②誘引条件の排除（生ゴミ、廃果、未収穫物）

【与えない・放置しない・見せない・回収する】

- ・一見かわいい、珍しいからといって、餌付けをしないことが大切です。
- ・餌となりうるものを放置することは、餌付けをしていることと同じです。
- ・犬や猫などペットの餌の食べ残しを放置しないようにします。
- ・ゴミ集積場では、ネットをかけ、ゴミ出し時間を厳守します(特に夜間に出さない)。
- ・農作物は収穫時期に達したら早めに収穫します。
- ・農地での収穫残渣は放置せず、適切に処分します。
- ・被害が一度発生すると常習化し、被害箇所を中心に新たな被害地拡大のおそれがあるため、注意が必要です。
- ・お墓のお供えもの、ハイキングやバーベキューでの生ゴミなどは持ち帰ります。

【餌場となりうる代表例】

- ・刈り跡の株から伸びて出穂したイネ
- ・ゴミ捨て場の生ゴミ
- ・クズ野菜
- ・落果実
- ・捨てられたホダ木から出たシイタケ
- ・放棄された竹やぶのタケノコ



お供え物（みかん）

③ 柵の設置

- ・ 各種の生態的特性に応じた高さの柵を設置すると効果的です。
- ・ 電気柵は、電気ショックによって忌避効果があり有効です。
- ・ 柿など実のなる木、ハクビシンの移動経路となる木の枝などのうち、不要なものは除去します。



柿の木に巻き付けた有刺鉄線

- ・ 電気柵の場合は、周囲の安全に十分注意し、電線のたるみや雑草との接触などがあると漏電で効果が低下します。
- ・ ヌートリアの場合、高さ1 m程度のトタンやネットで耕作地を囲う。また、本種の好まないネギ・ニラ・ピーマン等を畑の周りに植えると忌避効果があります。
- ・ アライグマ及びハクビシンの場合、被害木の根際に有刺鉄線やネズミ返し、トタンを巻き付けることも有効です。
- ・ ハクビシンは、柵を跳び越えるよりも、一度上に登る習性があり、枝を伝って侵入するため、周囲の枝の切り払いが必要です。

④ 営巣場所・隠れ場所の排除

- ・ 廃屋、空き家等は営巣可能なため、そのような条件をつくらないようにします。
- ・ 耕作地や民家の周囲の見通しを良くし、隠れ場所をなくします。
- ・ 侵入ルートとなる田畑周辺の草地は刈り取り、営巣の可能性の高い廃小屋などの構造物は取り除きます。
- ・ 侵入を確認した場合、室内用の殺虫剤を炊き込め、追い出します。



廃 屋

- 【ヌートリアは、耕作放棄地(ヨシ原など)で、アライグマやハクビシンは、民家・廃屋でも繁殖する】
- ・ 屋根裏には、瓦などを掻き出して侵入します。
 - ・ その他、次の場所から侵入するおそれがあるため、定期的な点検・修理が必要です。
 - 床下や土台の換気口
 - 屋根の換気口
 - 壁面の穴（クーラーの室外機からの冷氣取り込み口）
 - 戸袋の底面
 - ・ 防鳥ネットなど伝って登ることができ足場となるものは撤去します。